

【個別事業の概要】

水辺プラザ

北上川水系北上川（岩手県紫波町）

河川利用を向上させるための水辺拠点として、水辺に親しむための親水スロープ、散策路、船着場等を整備することにより、紫波町の中心市街地活性化計画と連携し、水辺のもつ「癒し」の効果を重視し、周辺に立地する医療施設や教育・福祉施設とも連携を図り、多くの人々の多様な利用に応える、快適な水辺空間を創出します。

子吉川水系子吉川（秋田県由利町）

整備拠点である西滝沢小学校跡地は、子吉川に隣接していることから、水辺の学習交流施設としての活用が、町民・児童等から要望されています。さらに、同町には由利町カヌークラブもあり、総合的な学習の場及び本荘市・由利町との連携強化を図るための「子吉川水辺ふれあい整備事業」として、学習・体験・舟着場の整備を図っていくものです。

水辺の楽校プロジェクト

北上川水系旧北上川（宮城県豊里町）

豊里町は、北上川、旧北上川、迫川に囲まれ、川と非常に深い関わりをもって生活してきた街です。近年においては豊里町主催による小学生を対象とした「北上川・石巻湾体験クルージング」も開催されており、自然学習に関して町は熱心に取り組んでいます。豊里町では、市街地にも近い豊里大橋付近の水辺環境を整備し、地域の環境学習、自然体験活動のより一層の推進を図ることとしています。

多摩川水系多摩川（東京都福生市）

当該地区は、既に高水敷が公園整備されているが、公園と河原とのアクセスがないため、水辺まで安全にアクセス可能なスロープやアクセス路を整備し、多摩川で「遊ぶ」「楽しむ」ことを通して、川のしくみ、生き物たちの関係、ひとの生活との関わりを理解し、人間と川、又そこに生息する生物とのよりよい関係や環境を創出します。

多摩川水系多摩川（東京都府中市）

当該地区は、堰上流の広い湛水面、複雑な水域、右岸側の山付き部、支川の合流といった複雑な環境要素が絡み、特に野鳥の生息が多く、河川では多種類の魚類観察が出来るなど、この一体は貴重な動植物が生息・生育する自然環境となっています。今回ワンドを造成し、ワンドを中心とした子ども達の自然環境に関する学習・体験の場、及び市民への自然環境に関する啓発学習の場とします。

利根川水系霞ヶ浦（茨城県桜川村）

当該地区は、以前、湖水浴場として利用された砂浜が広がっていた地区ですが、波浪などによる砂浜の減退により水辺が利用しにくくなっていることから、

子どもたちが安全で楽しく水辺に近づきやすいように、砂浜の再生や階段式親水護岸の整備を行います。これにより、茨城県が実施している公園整備と一体となった子どもたちの水辺体験の場が整備され、安全で快適な水辺区間を創出します。

利根川水系鬼怒川（栃木県宇都宮市）

当該地区は、「鬼怒川緑地運動公園基本計画」に位置付けられており、上流側はスポーツゾーンとして石井緑地運動公園、対岸は水浴を目的とした鬼怒川ふれあいビーチが整備されています。この一環として、当箇所についても緑の交流ゾーンとして鬼怒川の豊かな自然を活かし、子どもたちや市民の方々が水と緑に親しむ自然体験活動や小中学校の総合学習のフィールドとしての活用が求められており、アクセス路として散策路の整備や安心して水辺に近づける親水護岸等の河川整備を行います。

利根川水系小野川（千葉県佐原市）

当該地区は川をフェンスで囲われ、河岸は1 m程度の落差もあり水深も深く子供たちには危険な場所として近づくことを禁止しているところでもあります。今後は水辺に近づきやすく環境学習などの活動ができるとともに、ゆったりと木陰を散歩できる地域住民の憩いの場ともなる親水施設を整備します。

安倍川水系安倍川（静岡県静岡市）

当該地区は静岡市の都市部と山間部の中間に位置しており、その中継点となる場所であると共に、安倍川における市民団体の活動拠点となっている場所であることから、水辺の市民活動をさらに発展させると共に、別途静岡市の事業として整備が予定されている「都市山村交流センター」と一体的に活用できる水辺空間の創出を目的として、水辺の楽校プロジェクトによる河川整備を行います。

木戸川水系木戸川（島根県安来市）

木戸川は、古くから洪水が頻繁に発生し、河川改修の必要性が高まっている一方、小学校、幼稚園及び保育所が隣接し、近年、児童生徒と地域住民が一体となり、河川愛護活動や河川を利用したイベントが数多く実施されていることから、子供たちが安心して水辺に親しみ自然体験活動ができるよう河川改修と一体となった整備を行います。

吉井川水系吉井川（岡山県熊山町）

当該箇所は、山地に囲まれた豊かな自然が広がっており、昆虫鳥類等の生息が豊富で、遠浅の流水部は瀬や淵のある川らしい流れがみられ、水生生物も豊富な自然豊かな場所です。この自然あふれる場所で子どもたちが川を活かした環境学習の場として安全に利用できるよう、急勾配な川岸の改良などによる水辺へのアクセス性向上や、現地形を極力活かしつつ、ワンド、水路、散策道の整備など、水辺の自然観察が容易となるような整備を行います。

佐波川水系佐波川（山口県防府市）

佐波川中流部に位置する当該箇所は、水と自然の豊かな環境に恵まれていることから、自然環境の保全、教育関係者や地域住民等との連携、山口県において予定している自転車道等の整備と一体となり、子どもたちが水や自然とふれあい、遊び、学べる環境整備を行います。

仁淀川水系奥田川（高知県伊野町）

当該地区には、絶滅が危惧される水草、ナガエミクリとオグラコウホネが生育しており、これらの保全対策を行うとともに、地元小・中学校の児童、生徒の『自然体験の場』、『自然学習の場』として、子供たちが楽しみながら体験・学習できる安全な水辺整備を行います。

白川水系白川（熊本県熊本市）

子ども達が環境学習や自然体験活動を行う上で、安全で楽しく利活用ができるよう水辺へのアクセス等の整備を行うとともに、公園と一体となった整備を行うことにより、市街部における地域住民の憩いの場となる水辺空間の創出を図ります。

水と緑のネットワーク

九頭竜川水系（福井県福井市）

九頭竜川の鳴鹿大堰から、農業用水路を経由して市内の水路や河川に環境用水を導水することにより、身近にふれあえる水辺を街中に取り戻すとともに、災害に強い街づくりをすすめます。あわせて、「歴史のみち整備計画」など関連する事業と連携を図ってモデル箇所の整備を行ない、「歴史の風格と自然のやさらぎ 水と緑に彩られた都市の活力・福井の街づくり」を目指します。

肱川水系（愛媛県大洲市）

大洲市街地は、城下町として古くから栄えていた地域であり、大洲城址や臥龍山荘など多くの史跡が残り、「小京都」「水郷」と呼ばれる情緒豊かな風景を持っています。また、いもたきや鶉飼い、寒中水泳、花火大会、菜の花やコスモス畑といった川に関する行事も盛んです。

古くから人と川の結びつきを感じさせる地域であり、大洲城内濠跡水路の復活（浄化及び修景整備）など水郷にふさわしい環境整備を行おうとするものです。

ふるさとの川整備事業

十勝川水系機関庫の川（北海道帯広市）

機関庫の川は、「帯広市緑の基本計画」の中で、河川を活用した主要なネットワークとして位置付けられており、十勝川や札内川などで構成される大きな骨格を補完する緑の軸としての役割が求められています。また、機関庫の川沿川では、土地区画整理事業による市街化が計画されており、新市街地の整備と併せて、市街地の緑の主要なネットワークの実現にむけ、地域と一体となった水辺空間の整備を行います。

尻別川水系オロッコ川・ワッカタサップ川（北海道京極町）

京極町は「水の都」をまちづくりの基本方針に据え、「第4次京極町総合計画」では平成23年度までの10年間の目標として「美しい水と農の幸せなまち」を掲げ水をテーマとしたまちづくりへの取り組みや施策を進めており、京極町中心部を流れるオロッコ川・ワッカタサップ川において「美しい水と農の幸せなまち」実現にむけ、地域と一体となった水辺空間の整備を行います。

利根川水系前川（茨城県潮来市）

前川は、水郷潮来の歴史や文化と深く関わり、水郷の情緒を色濃く残し、あやめ園や舟による遊覧等、観光の中心的役割を担うとともに、市民の貴重な親水空間となっています。前川の整備にあたっては、「水郷に小舟が揺れ、あやめ咲くふるさとの川」を基本テーマとして、2列河川の整備や、中の島親水公園の整備、河岸跡の再生など、地域と一体となった水辺空間の整備を行います。

桜つつみモデル事業

菊川水系下小笠川（静岡県大東町）

大東町を流れる下小笠川は、天井川に加え洪水の流下能力が不足しているため、治水安全度の向上を図ることを目的として、捷水路による新川開削を実施しています。

この捷水路整備にあわせ「大東町ふるさと構想」の緑道整備が進められており、桜つつみモデル事業の区間は、桜による緑の木陰ゾーンとして、また、市民のリフレッシュ空間として、良好な水辺空間の整備を行います。

河川防災ステーション

石狩川水系忠別川（北海道旭川市）

北海道第二の都市である旭川市は、3河川が合流しており、ひとたび破堤等した場合は甚大な被害が予想されます。このため水防活動、緊急復旧活動を行う拠点として旭川市旭東大橋地先に河川防災ステーションを整備します。また、平常時は、隣接して整備されている旭川市のスポーツ公園と一体となり多数の地域住民の活動拠点として活用することができます。

子吉川水系子吉川（秋田県本荘市）

荒町地区河川防災ステーションは、子吉川流域における災害時の緊急復旧の迅速かつ円滑な活動の拠点として洪水被害を最小限に食い止めるために整備するものです。また、本荘市はレガッタ等ボート競技を中心として子吉川とつながりが大きく、水辺の街づくりを目標としています。平常時には水防センターやヘリポートをオープンスペースとし、周辺施設（せせらぎパーク、友水公園）と一体となった交流連携拠点、子吉川を軸とした文化活動の拠点として活用することができます。

北上川水系 迫川（宮城県米山町）

米山町は、迫川下流の低平地帯に位置しており、ひとたび洪水が起こると沿川は莫大な被害を受ける水害常襲地帯にあります。このため、災害時の緊急復旧の迅速かつ円滑な活動の拠点として米山町西野地先に河川防災ステーションを整備します。また、周辺には水辺の楽校プロジェクト等の事業が計画されており、平常時は、河川を軸とした教育、文化活動の拠点利用により、町全体の活性化、周辺とのコミュニケーションの支援が可能となります。

富士川水系 富士川（山梨県増穂町）

増穂地区河川防災ステーションは、富士川上流部における災害時の緊急復旧の迅速かつ円滑な活動の拠点として洪水被害を最小限に食い止めるために整備するものです。また、平常時には水辺プラザ、道の駅、中部横断道の増穂ICと一体となり、周辺市町村の交流、憩い、学習の場を創出することにより地域の核として、富士川を軸とした文化活動の拠点として、まちづくりの支援が可能となります。

利根川水系 江戸川（茨城県五霞町）

山王地区河川防災ステーションは、利根川本川と江戸川との分岐点に位置しており、災害時の緊急復旧の迅速かつ円滑な活動の拠点として洪水被害を最小限に食い止めるために整備するものです。また、平常時には、近隣の関宿城博物館、皇太子殿下ご成婚記念事業の河岸整備、五霞町の総合運動公園等と一体となり河川を基軸とした連携交流活動の拠点利用により、まちづくりの支援が可能となります。

木曽川水系 木曽川（岐阜県羽島市）

羽島市は東海道新幹線や名神高速道路などの主要交通が通り、ひとたび破堤、越水した場合は甚大な被害が予想されます。このため、水防活動、緊急復旧活動を行う拠点として、羽島市加賀野井地先に河川防災ステーションを整備します。また、平常時には、羽島市で整備予定の学習研究センターとともに、流域住民の身近なレクリエーション活動の拠点として広く活用することができます。

木曽川水系 揖斐川（岐阜県大垣市）

揖斐川中流部は、輪中地帯として古くから水害に悩まされ続けた地域であり、また、岐阜県第二の都市である大垣市をかかえ、ひとたび破堤、越水した場合は甚大な被害が予想されます。このため、水防活動、緊急復旧活動を行う拠点として、大垣市難波野地先に河川防災ステーションを整備します。また、平常時には、地域住民への災害に対する知識等を提供する場や流域住民の身近なレクリエーション活動の拠点として広く活用することができます。

大和川水系 大和川（大阪府八尾市）

大阪の都市部を流れる大和川は今から約300年前に付け替えられた人工の河川であり、洪水によりひとたび破堤、越水した場合には、甚大な被害が予想

されます。このため円滑かつ効果的に水防活動、緊急復旧活動を行う拠点として、八尾市若林地先に河川防災ステーションを整備します。また、平常時には、地域住民などが交流、災害に対する知識等を提供する情報交換などのコミュニティセンター的な交流拠点として広く利用することができます。

^{たかつ}高津川水系^{たかつ}高津川（^{ますだ}島根県益田市）

益田市の市街地は高津川と益田川に挟まれた地域で、ひとたび破堤、越水などが発生した場合には大きな被害が予想されます。このため、益田市中島地先において水防活動、緊急復旧活動の拠点となる河川防災ステーションを整備します。また、沿川では土地区画整理による新たなまちづくりが計画されており、この計画と一体となって整備を進めることにより、地域の方々にとって身近な水辺の利用拠点として活用することができます。

^{あさひ}旭川水系^{あさひ}旭川（^{おかやま}岡山県岡山市）

旭川は岡山市の中心市街地を流れており、ひとたび破堤、越水などが発生した場合には大きな被害が予想されます。このため、岡山市今在家地先において水防活動、緊急復旧活動の拠点となる河川防災ステーションを整備します。また、旭川では河川を軸とした交流連携活動が盛んであり、平常時にはそれら交流活動や河川利用における拠点として広く利用することができます。

^{かせ}嘉瀬川水系^{かせ}嘉瀬川（^{さが}佐賀県佐賀市）

嘉瀬川は、佐賀県庁所在地である佐賀市をかかえ、ひとたび破堤、越水した場合は甚大な被害が予想されます。このため、流域の中心に位置する佐賀市荻野地区に、水防活動の拠点となる河川防災ステーションを整備します。また、インターナショナルバルーンフェスタの開催地であると共に、近隣には県立森林公園等の施設整備が充実しており、平常時は地域住民への災害に対する知識等を提供する場や身近なレクリエーションスペースとして広く活用することができます。